

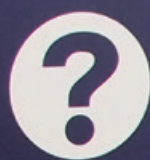
特集：羽田空港アクセスの強化

[京急電鉄の「羽田・品川」を核とした沿線価値向上の取り組み]



京急線
Keikyū Line
京急線 게이큐선

羽田空港 国際線ターミナル駅
Haneda Airport International Terminal Station
羽田机场国际线航站楼 하네다공항 국제선 터미널역



Information

ご案内

问讯处 안내소

KEIKYU

Keikyū Tourist Information Center

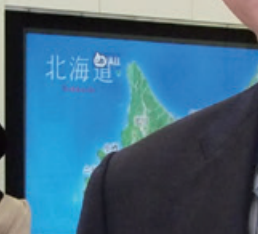
インフォメーションセンター
게이큐 여행자 인포메이션



京急線
のりば
Keikyū Line



品川・東銀座
・浅草方面
横浜方面
for Shinagawa,
Asakusa
for Yokohama
品川・浅草方向
横浜方向
시나가와・아사쿠사 방면
요코하마 방면



羽田・品川を 中心とした 事業展開で 沿線価値向上へ

2013年、京浜急行電鉄は創立115周年を迎えた。

営業路線は、都心部から浦賀に至る本線に、

空港線：大師線・逗子線・久里浜線を加えた5路線（総延長87km）であり、

1998年、空港線が羽田空港国内線ターミナルに乗り入れ、

2010年に羽田空港国際線ターミナル駅を開業してからは、

「羽田空港アクセス」を重点事業として推進してきた。

そして現在、京急電鉄では次なる成長戦略として、

交通の要衝として重要性が高まる品川地区と羽田空港を核に、

2拠点がある高いポテンシャルを活用した

「沿線価値のさらなる向上」に取り組んでいる。

京浜急行電鉄株式会社の原田一之取締役社長にお話を伺った。

京浜急行電鉄株式会社
取締役社長

原田一之

Kazuyuki HARADA

文●茶木 環／撮影●織本知之

特集：羽田空港アクセスの強化

〔京急電鉄の「羽田・品川」を核とした沿線価値向上の取り組み〕

「羽田・品川」を玄関口として

——羽田空港乗り入れから15年が経過しました。「羽田空港アクセス」のイメージが確立されています。

原田 1998年に羽田空港国内線ターミナル駅を、2010年に羽田空港国際ターミナル駅を開業し、羽田空港アクセスを担う企業としての役割を高めてきました。

これは民鉄全体に通じる傾向ですが、首都圏においては、どの会社においてもまだ人口減少が顕著に現れているわけはありませんが、鉄道事業における事業リスクとして、少子高齢化による人口減少への対応が課題となっています。

そうした中、当社は羽田空港に乗り入れ、航空路線を通じ、全国そして世界へとつながっています。羽田空港と直結し、当社線沿線に交流人口を受け入れていくチャンスがあるということ、は大変恵まれた環境にあると考えています。言い換えれば、この環境を活かすことができなければ、京急グループの将来はないといっても過言ではないと思っています。

——空港線の分起点である京急蒲田駅付近の高架化も完了しました。

原田 京急蒲田駅付近連続立体交差事業は、東京都の「都市計画事業」として2000年12月に事業着手し、2012年10月に事業区間全線の高架

化が完了しました。また、京急蒲田駅は本事業にあわせて2層高架構造に改良しました。これにより、ハード面での整備が完了し、羽田空港アクセスの能力を最大限に発揮できる体制が整ったこととなります。

高架化に伴い、品川・都心方面と羽田空港駅間、横浜方面と羽田空港駅間ともに直通電車をほぼ終日10分間隔で運行し、所要時間の短縮を図るなど、大幅なダイヤ改正を実施しました。利便性が格段に向上し、当社線をご利用になるお客さまが着実に増えています。

また、本事業により、正月の箱根駅伝でも知られる「京急蒲田（空）第1踏切道」をはじめ事業区間内にある28カ所の踏切を撤却しました。都内でも屈指の幹線道路である環状8号線や国道15号の慢性的な交通渋滞や踏切事故がなくなり、線路で分断されていた街を一体化する効果も期待されています。安全性を高め、魅力ある街づくりを進めていくうえで、地域のお役に立てたのではないかと思います。

撤却する踏切の数や総事業費の規模では全国でも最大級となった京急蒲田駅付近連続立体交差事業ですが、これも東京都、大田区、国、そして地元住民の方々からの多大なご協力があった実現できた事業です。駅舎や切替地点の整備など、事業完了に向けて引き続き工事を進めています。

——一方、京急の主要ターミナル駅である品川駅が、交通の要衝として期待を集めています。

原田 1968年に品川駅―泉岳寺駅間約1・2kmを開業するまで、本線の起点は品川駅で、今でも品川駅に0キロポストが置かれています。品川駅はJR各線に接続するターミナル駅であり、当社線では横浜駅に次いで乗降人員が多く、当社にとって非常に重要な駅です。

その品川駅では、2008年3月からJR東海の東海道新幹線すべての列車が停車するようになり、また、2027年に開業が予定されているリニア中央新幹線東京方の始発駅であることも発表されました。

報道によると、2014年度中にJR東日本の東北縦貫線が開業し、宇都宮線・高崎線・常磐線の3路線が東京駅まで乗り入れ、品川までの直通運転が可能になります。さらに、品川駅周辺の再開発については、15haに及ぶ車両基地の再開発が検討されており、山手線の新駅構想などもあるようです。

当社線が品川駅と羽田空港を15分で結び、東海道新幹線と将来的にはリニア中央新幹線も加えた広域交通の拠点となる品川は、交通の要衝として、さらなる発展が期待されています。

——そうした両拠点が持つポテンシャルを活用して、沿線価値の向上に取り組んでいくというお考えなのですね。

原田 京急グループの長期ビジョンを「品川・羽田を玄関口として、国内外の多くの人が集う、豊かな沿線へ」と定めています。

交通事業は人の移動が伴うものです。品川や羽田という玄関口を通じて、たくさんのお客さまが当社線沿線を訪れる。沿線に広く相乗効果を波及させる事業を展開し、交流人口だけではなく、就労人口や定住人口も増加させていく。品川と羽田、この2拠点が持つポテンシャルを沿線全域の活性化



品川駅に停車する羽田空港行き「エアポート快特」



2層高架式になった京急蒲田駅。



京急電鉄の起点駅である品川駅。首都圏交通の要衝となっている。

につなげ、多くの人々が集う豊かな沿線を目指したいと考えています。

「羽田空港」をキーワードに

——羽田空港のポテンシャルの活用としては、どのようなお考えをお持ちですか。

原田 羽田空港の発着枠は段階的に増強されています。国内線は2013年3月に2万回増枠され、国際線も2014年3月に3万回の増枠が予定されており、国内・国際の合計で、44・7万回になります。国土交通省の資料によれば2012年度の空港利用者数6679万人が、2017年には8030万人に増えると予測されています。

京急グループによる羽田空港アクセスには、鉄道のほかにもバス、タクシ―があり、三位一体となって利便性の向上に取り組んでいます。

バスは、羽田空港発着のリムジンバスが46路線で運行しています。また、ターミナル駅や住宅地だけではなく、東京スカイツリーや東京デイズニ―リゾート、箱根や富士山など、人気観光スポットへの直行バスの運行を開始しています。

タクシ―では、東京、川崎、横浜、鎌倉、逗子、葉山の各地区で、「定額制タクシ―」を導入しています。これは、羽田空港と目的地を結ぶ2区間に

おいて、あらかじめ設定した定額運賃でタクシ―を利用できるサービスで、「運賃の不安がなく乗車できる」と好評です。

羽田空港の国際線については、すでに24時間運用されていますが、当社グループの対応にはまださまざまな課題があり、万全とは言えません。今後の対応が課題となっていますが、鉄道、バス、タクシ―、三つの交通モードをうまく活用することで、深夜早朝時間帯のニーズに役立てていきたいと考えています。また、ホテル需要の拡大にも対応し、ビジネスホテル「京急EXイン」の出店を進めています。

鉄道、バスともに公共交通機関として当社だけでは解決できない他社とのネットワーク構築などの課題もありますが、京急グループの総力でさらに利便性を高め、「羽田空港アクセスといえは京急」と皆様に言っていたただけるようにしたいと思っています。

——品川のポテンシャルを活用した事業についても聞かせください。

原田 先ほども申し上げたように、品川駅は京急グループにとって、鉄道の起点であると同時に主要ターミナルです。品川駅前の好立地を活用して、賃貸ビルやショッピングセンター、ホテルなどさまざまな事業を展開しています。

「京急EXイン品川駅前」がキーテナントの複合施設「SHINAGAWA AGOOS」をはじめ、京急グル―

ープは、品川駅の高輪口周辺に約6万㎡の土地を保有しています。

現在検討されている品川駅周辺の再開発に関して、京急グループとして、保有資産をどう活かしていくのか、品川の街づくり全体を見渡し、グループの総力を挙げて取り組んでいきたい。東京都や港区、国、関係各所などと協議をしながら、駅改良や賃貸ビル事業だけにとどまらない、京急グループの活躍の場を創出する最適なプランをまとめていきたいと考えています。

——この地域が特区に指定されていることも大きな弾みになりますね。

原田 はい。品川・羽田周辺地区は、2011年12月に国から「国際戦略総合特区」に指定されました。この特区は、わが国の経済成長のエンジンとなる産業機能の集積拠点を目指し、全国で7地域が指定されています。国際戦略総合特区に指定されると、法人税の軽減等、税制上の支援措置を受けることができます。品川・羽田周辺地区は、「アジアヘッドクォーター特区」として、外国企業を誘致するための戦略的な都市づくりが推進されます。品川駅周辺の再開発は、国のレベルで見ても非常に価値があるということです。品川にかかる期待は大きい。国際的な視野においても価値が高いビジネスエリアの創造を目指し、京急グループとしてもそれに応える街づくりを検討していきたいと思っています。

特集：羽田空港アクセスの強化

〔京急電鉄の「羽田・品川」を核とした沿線価値向上の取り組み〕

——京急沿線では、もう1カ所、国際総合戦略特区に指定されています。

原田 川崎・横浜の臨海部で、「京浜臨海部ライフィノベーション特区」に指定されています。やはり羽田空港に至近であること、鉄道や幹線道路、京浜港など交通基盤が充実していることが特区に指定された背景にあります。

かつて京浜工業地帯として繁栄した川崎・横浜の臨海部は、相次ぐ工場の移転によって空洞化が懸念されていました。しかし現在は、ライフサイエンス・環境分野における世界最高水準の研究開発から新産業を創出する「国際戦略拠点」の形成が進んでいます。

品川に加えて、この川崎・横浜地域も、羽田空港との至近性が高く京急グループにとって重要な戦略拠点です。

国や自治体の方々もさまざまな取り組みをされていますが、われわれ京急グループも、羽田空港と直結するメリットを活かし、当社沿線にお客さまを迎えるさまざまな事業を展開していると考えています。

当社線沿線には、品川や羽田空港に1時間圏内で直結する、川崎・横浜の産業集積地域、横浜南部や横須賀の住宅地、三浦半島や鎌倉など自然や歴史に彩られた観光地など、国内外から注目を集める地域が数多くあります。

これらの沿線地域で、商業施設や住宅の供給、流通や生活関連サービスの提供、自治体との連携による地域振興

など新たな取り組みを積極的に進めて、人の流れをつくり、沿線人口を増やしていく。今後はさらに、全事業において「羽田空港」のポテンシャルを意識していきます。

グループ力を活かし世界ブランドへ

——2020年夏季オリンピック・パリンピックの東京開催が決まり、羽田空港アクセスを担う京急グループの重要性は、さらに高まりそうです。

原田 そうですね。オリンピックの開催時には、世界中から日本を訪れる選手やお客さまが、羽田空港からお台場をはじめ都内のさまざまな会場や選手村、宿泊施設へ移動することになります。われわれにはその輸送を全うする責務があります。

オリンピックに向けて、羽田空港アクセスを担う企業として、基盤を整備していきます。オリンピックは、われわれ京急グループにとって試金石になると思っています。京急グループは本来に、羽田空港アクセスを担うことができるのかということです。オリンピック開催を支える都市インフラとして交通面が弱いと指摘した記事を目にしましたが、やるべきことがある限り、われわれは取り組んでいきます。

——京急グループ内の改革も進められているとお聞きました。

原田 京急グループは65社からなり、

交通事業を中核に、不動産事業、流通事業など、業種は多岐に渡ります。115年の間、さまざまな事業を通して沿線の発展に取り組んできましたが、これからはさらにグループの総合力を発揮し、さらには連携を強固にしていく必要があります。グループ内の全員が同じ思いで業務に取り組むために、京急電鉄の社是をグループ理念に改めました。

グループ全体の事業推進体制についても改善しています。京急電鉄の機構改革を実施し、地域開発本部と都市生活事業本部を一体化して「生活事業創造本部」を創設しました。鉄道をはじめとする交通事業と、沿線価値の向上を目指す生活に関する事業という二つの大きな柱にしたわけです。鉄道をはじめとする交通事業は、ある意味では沿線地域の骨や血管部分です。そこに筋肉を付け、街として花開かせるのが「生活事業創造本部」です。その両方があってこそ、真の沿線の活性化につながっていると思っています。

——最後に、「京急」ブランドについてお聞かせください。

原田 かつては「三浦海岸への海水浴電車」だった京急のイメージ

も、今では「羽田空港アクセス」に変わっています。「京急」ブランドをさらに浸透させて全国ブランドとして確立し、さらには世界ブランドを目指します。

鉄道もバスも流通事業も当社グループ事業すべてはサービス産業です。合理化できる部分もありますが、サービス業はやはり最後は人の力が必要になります。京急は社員全員の顔が見える規模の企業ですし、グループの仕事はすべて、人がサービスし、人が支えているもので、それが「京急」のイメージにつながっています。諸先輩が築き上げてきた沿線の方々の「安全な京急・信頼できる京急」のイメージを大切に、京急グループに対する信頼にお応えし、さらに高めていくための努力を続けていきたいと思っています。

